



資料館報

第38号

編集 平成30年3月31日
発行 高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田2243
電話(0265)35-7083
印刷 (有)雨宮印刷
電話(0265)22-6027



目次

○あいさつ	2	●ミニ平和展	
○平成29年度事業報告	3	●ひな人形と美人画展	
○資料館委員会等の活動記録	4	●町民ギャラリー展	
○「時の駅」講座	5	○親子体験教室・小正月飾り作り	10
○小和田哲男氏特別講演会・松岡城跡探索	6	○考古部門リニューアル	11
○学校、地域との交流連携	7	○研究調査報告	12・13
○平成29年度企画展・特別展	7～10	○平成29年度の記録	14～16
●五月人形と武具展		○平成29年度資料寄贈者	16
●直虎・亀之丞を取り巻く群像		○編集後記	16
●明治の夜明けに挑んだ出原の今村清之助			
●華麗なる立川流彫刻を生み出した人たち			

◎ごあいさつ



高森町長 王生照玄

1月より多くの皆さんのご支援を賜り、高森町長としてお世話になることになりました。2027年9年後にはリニア中央新幹線が開通します。伊那谷全体が地域の活性化に湧き、高森町でも誘客に向けた動きが活発化しようとしています。私はリニア長野県駅を単なる通過駅にしないため、観光人口ではなく『関係人口』を増やすことが、今後の高森町の発展につながると考えています。

『関係人口』とは、高森町固有の歴史や文化、民俗芸能、景観資源を誘客の一つの手段としながら、伊那谷特有の温かい人間性やおもてなしにより、高森町を訪れる皆さんが、町を第二、第三の故郷と考えていただき、「もう一度この人に会いたい」、「もう一度この時間を過ごしたい」と感じていただける人を一人でも多く増やすことです。そのためには、普段当たり前に見ている風景や過ごしている時間がどのような価値があるのかを、私たち自身が再発見する必要があります。

幸い町には「時の駅」という町の歴史や文化を知るための大きな財産があります。多くの町民の皆さんがある、未来の高森町のために、生涯学習の拠点である資料館で学び、愛郷心とともに見識を深めていただけることを願っています。

資料館運営委員長 松島悦男



今年度は「直虎」関連の利用者増や展示室の改善があり、多数ご来館頂き深謝いたします。時の駅特別講座「井伊直虎と直親」で小和田氏は直虎の不屈の精神と実行力、庶民の目線で生きる姿勢が尊いと語り、講座①「古代の高森の姿」で芦部氏は伊那郡衙と深く関連する出土品が多数あり、古代から高い文化が形成された証であり貴重な宝であると紹介。講座②「南山一揆」で矢澤氏は幕藩体制下で農民の反権力の高まりに屈して騒動は終結する。農民の志の強さに今も学ぶべきと語る。講座③「立川流の変遷と匠たち」で6代目尚富氏は、「日本人の根底に流れる美意識に支えられた最も日本的な文化が結晶した彫刻師」と語り、今も現役の後継者でした。どの講話も専門的であるが分かり易く、参加者の感想は、新鮮でかつ心に残ると好評でした。

高度経済成長時代に於ける現在はどうか？日本の中核的企業の「物づくり」に不正な事例が発覚し大変残念でした。だが、本町では古来より物を大切にし、精魂込めた製品や建造物、および伝統芸能等貴重な文化遺産を守り続けました。この古き良き伝統を見直し、学び合い、後世に継承すべく人材育成に努めますので、皆様のご支援お願い申し上げます。

資料館長 松上清志



平成 30 年 3 月 31 日付をもちまして、資料館長の職を退任いたしました。町の文化や歴史についてよくわからないままに職に就き、平成 23 年度から 3 年間は主事、その後の 4 年間は館長として、町当局をはじめ、町民の皆さんからの心温まるご指導、ご鞭撻をいただき、何とかその任を全うすることができました。心より感謝申し上げるとともに、厚く御礼申し上げます。

在職中、高森町は大昔から多くの人が住み、豊かな文化が育まれた地であることを痛感しました。特に、土器や石器の素晴らしい、貴重な富本銭、熱き思いのこもった平田国学の学習運動から生まれた本学神社、市田柿をブランド化した人たちの取り組みなどの貴重な文化遺産について学ぶことができました。また、一昨年の秋ごろからは大河ドラマ関連で、多くの方が訪れ、楽しんで参觀してくださるとともに、観光ガイドの皆さんには活動のよりどころとしてご利用いただきました。

今後も資料館が生涯学習の場、ふるさと学習の場として、より多くの方々に親しまれて発展していくことを祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

◆平成 29 年度 事業報告◆

館長 松 上 清 志

高森町歴史民俗資料館が設立されてから 38 年目を迎えた本年度は、大河ドラマとの関連もあり、町内外の多くの方々に見学していただいたり、施設を利用していただいたりしました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導に心から感謝申上げ、平成 29 年度の事業報告をさせていただきます。



(1) 企画・特別展

①五月人形と武具展	(5月)	< 1,720 名 >
②特別展「亀之丞・直虎をめぐる群像」	(7月 11 日～ 8 月 2 日)	< 626 名 >
③特別展「明治の夜明けに挑んだ出原の今村清之助」(9月 1 日～ 10 月 1 日)		< 772 名 >
④特別展「華麗な立川流彫刻を生み出した人たち」(11月 1 日～ 12 月 3 日)		< 1,008 名 >
⑤雛人形と美人画展	(3月 1 日～ 4 月 1 日)	< 名 >
○三校児童・生徒作品展、顔面把手の写真展、ミニ平和展(戦争に翻弄された人々・8月 25 日～ 10 月 1 日)		
○餅つき・小正月飾り作り体験教室(1月 8 日)		< 60 名 >
○夏休み親子体験教室		
7月 29 日(土) 第一講座「富本銭レプリカづくり」	第二講座「糸取り・飾りひも作り」	合計 35 名
7月 30 日(日) 第三講座「勾玉づくり」	第四講座「土器づくり」	合計 58 名

(2) 「時の駅」講座(18 年次)

①特別講座 5 月 5 日(土)「井伊直虎と直親(亀之丞)ー亀之丞時代の松源寺・松岡城」	小和田哲男氏 200 名
②第 1 講座 7 月 15 日(土)「古代の高森の姿～伊那郡衙成立前後の様相を中心にして～」	芦部公一主事 37 名
③第 2 講座 9 月 2 日(土)「白河藩市田陣屋と南山一揆」	矢澤 篤氏 45 名
④第 3 講座 11 月 11 日(土)「立川流の変遷と匠たち」	立川芳郎尚富氏 60 名

(3) 古文書研究会

- ・吉澤章氏を講師に毎月第 3 木曜日に実施(うち 1 回は館外；松川町、駒ヶ根、宮田村での研修)
- ・2 月は、山内尚巳氏に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から 45 名が参加。

(4) 『高森町史』を読む会

- ・発足して 3 年目に入り、毎月第 4 木曜日に約 20 名ほどの参加で実施した。
- ・11 月に古御家、萩山神社、安養寺などのフィールド学習、1 月 20 日(土)江戸時代の農民の姿について、伊坪達郎氏の講演会を行った。(38 名参加)

(5) 委員会の活動

- ①運営委員会 資料館の運営について協議。3 回開催(他に小正月飾り作り体験教室で 1 回開催)
- ②調査委員会 『子どもに伝えたい高森町の年中行事』を執筆、発行 5 回開催(小正月飾り作り教室にも参加)

(6) 学社連携事業

- ①資料館と学校が連携して授業を実施。高森南小 3 ～ 6 年(17 学級)、高森北小 3 ～ 6 年(3 学級)、高森中 1 、 3 年(6 学級)、高森中美術クラブ、高森南北小のクラブ、町外の 3 小学校(8 学級)
- ②農業体験ホームステイで来町した県外の中学生が見学のため来館(5 グループ)
 - ・町内外の小・中学校の子どもたちが社会科や総合学習等で資料館を積極的に活用してくれ、土器に触れたり、古い生活用具を動かしたりできる体験コーナーは好評であった。また、松岡城址や武陵地 1 号古墳、惣兵衛堤防、下市田学校等の史跡での現地学習の支援も行った。

(7) 入館者数

平成 29 年度の入館者数は 10,827 名(昭和 54 年の開館からは 244,695 名)

- ・下市田史談会、牛牧老人クラブ、保育園や高森町教職員、公民館活動の一環としてなど町内外の多くの方に展示を見学していただいた。特に、今年度は大河ドラマ関連の見学者が大幅に増えた。また、高森町史学会、柿の里短歌フォーラム、ガイド会議、南信州高森 BC 等の団体に施設をご利用いただいた。

(8) その他

- ・本年も、天理教高森支部や建設労連の皆さんのが奉仕作業を実施してください、内外の環境が整備され感謝している。ホームページの運用が軌道にのり、情報をリアルタイムに発信できた。

資料館 委員会等の記録

1 資料館運営委員会

〈委 員〉

松島 悅男 下沢 貢
松村 行彦 座光寺 永子
北原 みどり

〔運営委員会の主な活動〕

○定例委員会 4 回

- ・資料館「時の駅」の運営に関わりさまざまな提言をした。また、夏休み親子体験教室、小正月飾りづくり教室の指導も行った。

2 資料館調査委員会

〈委 員〉

(山 吹) 塩澤 孝・橋都 洋二
(吉 田) 中塚 悟・中塚 美弘
(下市田) 片桐 猛・唐木 孝治
中村 忠敬
(上市田) 下平 清志
(牛 牧) 加藤 清
(大島山) 本島 義文
(出 原) 畑中 定喜

〔調査委員会の主な活動〕

○定例委員会 6 回

- ・「子どもに伝えたい高森町の年中行事」について執筆活動を進めた。季節ごとの年中行事を、小委員会を設けて検討を重ね、冊子を刊行した。
- ・小正月飾りづくりでは、伝統的行事についての話をして飾りつけの指導をした。

3 古文書研究会

〈組 織〉

会 長 手塚 勝昭 (吉 田)
副会長 本島 恭則 (吉 田)
会 計 鈴木 信孝 (下市田)
監 事 松村 一 (下市田)
講 師 吉澤 章 (飯田市)
顧 問 原 次郎 (下市田)
福島 壽子 (下市田)
小林 正人 (牛 牧)
幹 事 松上 清志・横井みつ子 (資料館)
会 員 34 名 (内 14 名は町外の会員))

〔活 動〕

○定例会 (毎月第 3 木曜日)

関川家文書を中心に、講師の吉澤さんに解説していただき、読み深めた。7月の館外研修は、駒ヶ根市立博物館の古文書を中心に研修を深めた。

○古文書特別研究会

山内尚巳さんを講師に迎え、「和宮下向と中山道への伊那郡助郷村の対応・伊那街道波合関所と井伊直孝支配の中山道碓井関所」を読み、研究を深めた。



4 高森町史を読む会

〈組 織〉

会 長 近藤 昭弘 (下市田)
副会長 羽生 宏敬 (下市田)
会 計 横井みつ子 (資料館)
会 員 28 名 (内 1 名は町外の会員)

〔活 動〕

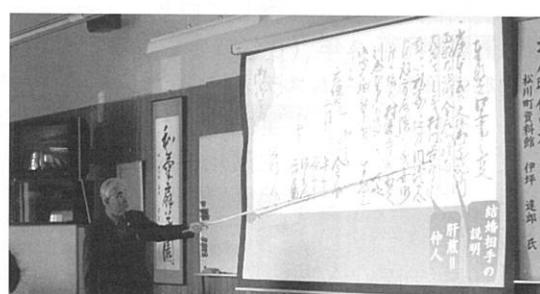
○定例会 (毎月第 4 木曜日)

3 年目を迎えた町史を読む会では、「近世」の項目を読み進めた。

臨地研修として、古御家城跡、萩山神社、安養寺などを巡り研修を深めた。

○特別講演会

伊坪達郎さんを講師に迎え、「江戸時代の村と人々の暮らし」と題しての講演を聴いた。



5 資料館活用委員会

高森南小学校、北小学校、高森中学校、高森町図書館の関係職員で構成し、年 3 回、資料館の有効活用について検討した。

第18回 充実の「時の駅」講座



第 18 回を迎えた今年度は小和田哲男氏の特別講演会を含め、4 講座を行いました。小和田氏特別講演会以外の「時の駅」講座の記録は資料館にありますので、希望される方は高森町歴史民俗資料館「時の駅」(TEL35-7083)までご連絡ください。

第1講座『古代の高森の姿 ~伊那郡衙成立前後を中心にして~』

7月 15 日 37 名受講
講師：資料館
芦部 公一 主事



◆29年7月には、資料館考古部門常設展示を30数年ぶりに全面展示替えました。この講座では、縄文時代草創期から中世までの新たな展示資料を紹介するとともに、特に伊那郡衙が成立の8世紀前後を中心とした古代の高森の姿について話しました。座光寺古墳群と高森の古墳群の関係や座光寺にあった伊那郡衙。高森の地は南大島川を挟んでいるとはいえ、大変関係が深く、古代においてはまさに伊那郡の中心であったことを出土遺物が物語っているのです。

第2講座『白河藩市田陣屋と南山一揆』

9月 2 日 45 名受講
講師：町文化財調査委員
矢澤 篤氏



◆幕末、市田村は飯田藩と白河藩の知行地に分かれていました。上市田にあった白河藩阿部氏の市田陣屋の設置から撤廃までの経緯と、代官（のち郡奉行）務川忠兵衛の圧政に苦しんで起こされた南山一揆についてお話しいただきました。

飯田藩から白河藩に変わった経緯や、南山36カ村の人たちが決起しなければならなかった逼迫した経済状況、一揆の結末から、その後の小前騒動まで、幕末の当地方の農民の様子がよくわかりました。

第3講座『立川流の変遷と匠たち』

11月 11 日 60 名受講
講師：立川流彫刻 6 代目
立川芳郎尚富 氏



◆飯田下伊那には多くの立川流彫刻が、建築が残されています。立川流彫刻 6 代目立川芳郎尚富に、豊富な写真資料を使い、立川流彫刻の成立、大隅流彫刻との違い、そして 2 代和四郎富昌、3 代和四郎富重、富昌の弟子、立川音四郎種清、その弟子坂田亀吉などの立川流を支え発展させた匠たちの仕事について話していただきました。立川流彫刻建築が飯田下伊那に多く残されている現状から、さらに発見される可能性も指摘されました。

「時の駅」講座小和田哲男氏特別講演会 5月5日 200名受講 『井伊直虎と直親』 ~亀之丞時代の松源寺・松岡城~』

◆大河ドラマ『おんな城主直虎』の時代考証を担当した静岡大学名誉教授小和田哲男氏による講演会を開催しました。小和田氏は、次郎法師と亀之丞の関係、文叔瑞郁、黙宗瑞淵、南渓瑞聞と井伊氏の関係、亀之丞が松源寺を頼った経緯、松岡氏と井伊氏、松岡城跡とその支城群のことなど、今川氏や徳川氏の関係も含め、井伊家伝記やご自身研究をもとに詳しくご講演いただきました。



松岡城跡を歩く会 5月6日 60名参加



◆その規模東西 500m、南北 300m を誇る松岡城跡。段丘の先端に築かれ、連郭式で、堀切で区切られた5つの曲輪で構成される平山城です。築城は 14 世紀頃と考えられています。山麓には堅堀、堅土塁、腰曲輪などの防御施設もしっかりと残っています。

小和田氏の解説を聞きながら、五の曲輪の西にある空堀から銚子ヶ洞を回り、東側の虎口から防御施設を確認しながら主郭まで歩きました。

改めて松岡城跡の規模と遺構の素晴らしさを実感しました。

学校・地域との連携

◆町内外の多くの学校に利用いただきました。

①松尾小学校 3年生 昔のくらし体験	②高森南小学校 6年生 歴史学習
③高森北小学校 6年生 歴史学習	④高森中学美術部 亀之丞
⑤高森中学校 1年生 市田柿学習	⑥高森中学校 3年生 伝統文化
⑦高森北小学校クラブ活動 6回	⑧高森南小学校クラブ活動 3回
⑨松川中央小学校 3年生 昔のくらし体験	⑩高森南小学校 3年生 昔のくらし体験
⑪高森北小学校 3年生 昔のくらし体験	⑫阿智第2小学校 3年生 昔のくらし体験
⑬高森南小学校 3年生 下市田学校の歴史	⑭高森北小学校 4年生 惣兵衛堤防

◆新たな動きでは、山吹上育成会の活動、北小学校3年生親子体験教室での資料館利用がありました。また、北部地区公民館運営協議会の皆さんと、富本錢学習・富本錢レプリカ作りを行うということもありました。富本錢レプリカづくりは、町公民館主催の夏休みふれあいキャンプの中でも取り上げてもらいました。



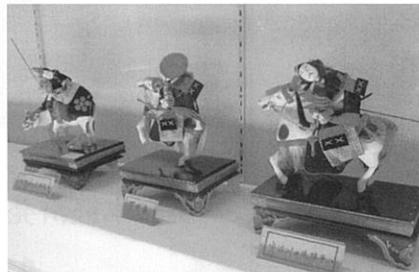
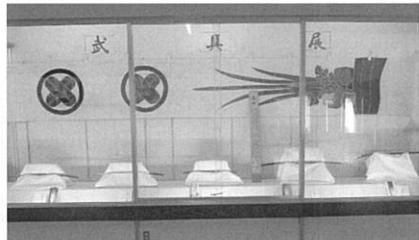
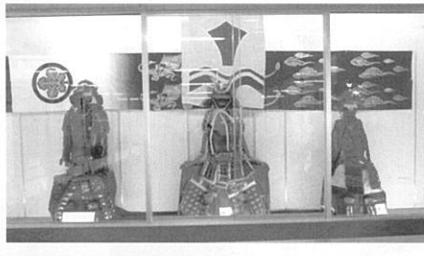
平成 29 年度企画展・特別展

企画展『五月人形と武具』4月 25 日～6月 1 日 入館者 1,720 名

企画展
4月 25 日～6月 1 日

五月人形と武具

展示品
五月人形・座敷幟
水戸浪士の遺刀他
寄託・所蔵の刀剣
座光寺氏甲冑など
休館日：4/30, 5/1
5/8, 15, 22, 29
高森町歴史民俗資料館
0265-35-7083



◆座光寺為真（為時）、座光寺為永らの甲冑や資料館寄託・所蔵の刀剣類を展示しました。また、町内から寄贈いただいた五月人形や座敷幟、兜飾りなども展示しました。水戸浪士の遺刀、座光寺氏 4 代為治（刀工名：長治）、萩山神社宝刀なども毎年展示していますが、注目を集めました。

特別展『亀之丞・直虎をめぐる群像』

7月 1 日～7月 31 日 入館者 626 名

◆大河ドラマ『おんな城主直虎』が佳境を迎える中、亀之丞や直虎を巡る人間関係の中から、文叔瑞郁禪師、新野左馬之助公、松尾小笠原氏に焦点を当て展示をしました。

文叔瑞郁禪師は、松岡貞正の実弟で松源寺開山、龍門寺開山であり、さらに井伊氏の菩提寺龍潭寺の拝請開山です。松岡と井伊の法縁を作った人物です。また、松岡貞正内室（雲龍院殿）は小笠原氏の出ということで、松岡氏とのかかわりは大変深いことになります。そして、新野左馬之助は、井伊直虎の母、井伊直盛内室の兄で、亀之丞（直親）の一子虎松を今川の手から守ったという人物です。

直親、直虎亡き後、直政が徳川家康の庇護のもと、井伊家をつなぎ、彦根藩 30 万石として幕末まで栄えていくわけですが、これらの人物なくしては、それもかなわなかつたことでしょう。



新野左馬之助親矩公：御前崎商工観光課リーフレットより

特別展『明治の夜明けに挑んだ出原の今村清之助』

9月 1 日～10月 1 日 入館者 772 名

◆出原出身の今村清之助は露天商より身を起こし、東京株式取引所の開設、今村銀行の創立、鉄道事業での成功など、明治時代の経済界において大いに力を発揮した人物です。渋沢

榮一、田中平八との関わりで東京株式取引所の開設に尽力したこと改めて注目が集まっています。

展示では、冊子『高森の人』から、今村清之助の足跡を紹介しながら、横浜時代の清之助、東京株式取引所開設、今村銀行の設立、鉄道王と言われた時代などの彼の活躍に焦点を当てました。

一緒に外遊した陸奥宗光

が出早神社幟旗として揮毫した原書も展示しました。

地元出身の人物が日本経済発展の基礎を作ったわけで、その功績を改めて見直すことができました。



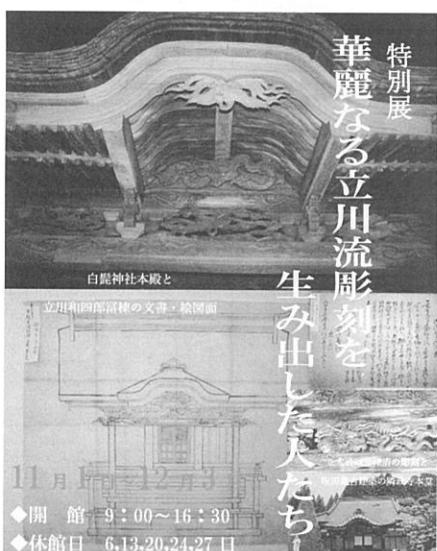
清之助自筆の手紙



陸奥宗光揮毫出早神社幟旗

特別展『華麗なる立川流彫刻を生み出した人たち』

11月1日～12月3日 入館者 1,008名



高森町歴史民俗資料館「時の駅」

◆高森町には白髭神社本殿（初代立川和四郎富棟作）、隣政寺本堂（立川音四郎種清・坂田亀吉）など立川流の彫刻建築がいくつか存在しますが、今回は、それらも含め飯田下伊那に分布している立川流一門の彫刻建築について、その分布と実際を写真や実物を使って展示しました。また、近頃、立川流彫刻 6 代目を襲名した立川芳郎尚富氏の作品も 3 点展示をしました。

今回展示したのは、初代立川和四郎富棟の白髭神社設計図・棟札、2 代富昌の阿島祭龍頭、3 代富重作の瑞應寺や愛宕神社等の写真、立川音四郎種清の大工道具、坂田亀吉作の下市田学校、七久里神社等の写真です。

現在、飯田下伊那で確認できている立川流一門の足跡は 28 の社寺等に上ります。



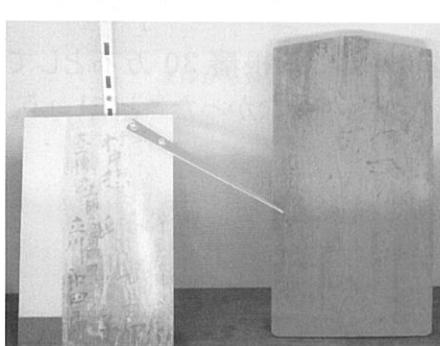
阿島祭龍頭



立川音四郎種清大工道具



6 代立川芳郎尚富「黒獅子」



白髭神社棟札

企画展『ひな人形と美人画』

3月1日～4月1日 入館者 532名

◆恒例のひな人形と美人画展。当館で一番古いのは、天保 13 年（1843）の内裏雛（小川家）です。他にも明治から大正期にかけての内裏雛、昭和 30 年代の御殿雛、明治時代の土雛、昭和の押絵雛、昭和 40～50 年代の七段飾りなど、貴重な資料館所蔵の 100 点以上のひな人形を展示しました。



小川家内裏雛



大洞家内裏雛



3月1日～4月1日

高森町歴史文化資料館

ミニ平和展『戦争に翻弄された人々』



◆高森町出身の一木（加藤）清直少佐を取り上げました。一木清直氏は、盧溝橋事件にかかわりガダルカナル戦では部隊が全滅し、その責任を問われていましたが、防衛大学関口准教授はその評価を改め、日本軍全体の『任務重視型作戦遂行』にその原因があったといいます。その説を中心に展示を行いました。また、市田国民学坂井陸海校長、自由開拓団の松島君子さん、少年義勇軍関係で串原喜代枝さん、田戸純一さんを取り上げ、戦争という大きな波の中にのまれ、悲惨な体験をしながらもその時代をそれぞれの立場で生き抜いた姿を展示しました。



町民ギャラリーの作品展



◆今年も町民ギャラリーを町内小中 3 校の児童生徒の皆さん的作品を展示しました。また、吉田地区有志の皆さんの『顔面取手』写真も展示しました。

また、直虎・亀之丞のコーナーを 1 月まで継続しました。松源寺、松岡城跡を訪ね資料館にも足を運んでくれた観光客には大変好評でした。

親子体験教室と小正月飾りづくり

◆歴史や伝統行事を体験し、ふるさと高森をより理解してもらおうと、今年も親子体験教室①夏休み親子体験教室 4 講座（勾玉づくり、マユから糸取り、富本銭レプリカ、土器づくり：7 月 29・30 日）②土器野焼き（11 月 4 日）③小正月飾りづくり（1 月 8 日）④小正月飾り納め（1 月 25 日）と、多くの子どもたちの参加で行いました。



よみがえる古代の高森 ～考古部門のリニューアル～



◆考古部門は昭和58年の展示以来大きな展示替えは行ってきませんでした。その間、町内では発掘調査が重ねられ、新しい資料が数多く発見されてきています。そこで新たな資料を公開していくとともに、子どもたちにもより分かりやすいものにしていこうと展示替えを行いました。

◆地域の皆さん、特に、子どもたちにはふるさと高森の歴史が日本の歴史の中でどのようにかかわってくるのか、高森の遺跡で出土した文化財を通して理解してもらおうと考えました。

◆壁一面に広がる発掘された高森の遺跡地図と、高森の歴史年表は、自分の家の近くにある遺跡がいつの時代のものか一目でわかるようにしました。また、文化財を間近でみられるオープン展示にも心がけました。

組合回覧
高森町歴史民俗資料館「時の駅」考古部門展示リニューアル

よみがえる古代の高森



「富本銭」だけではない
高森の埋蔵文化財・歴史遺産
ふるさと高森の古代の歴史が
日本の歴史につながる

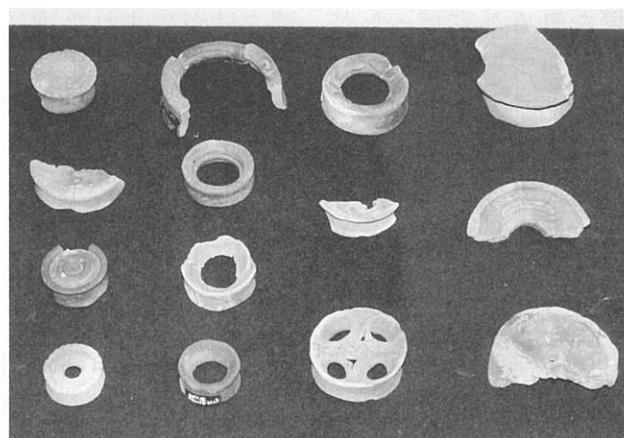
「時の駅」講座 第1講座・展示解説
「古代の高森の姿」資料館主事：芦部公一
7月 15日（土）午後1時30分～
※申し込みは資料館「時の駅」35-7083へ
詳しくは、広報たかもり 6月号に載っています。

史が日本の歴史の中でどのようにかかわってくるのか、高森の遺跡で出土した文化財を通して理解してもらおうと考えました。

◆壁一面に広がる発掘された高森の遺跡地図と、高森の歴史年表は、自分の家の近くにある遺跡がいつの時代のものか一目でわかるようにしました。また、文化財を間近でみられるオープン展示にも心がけました。



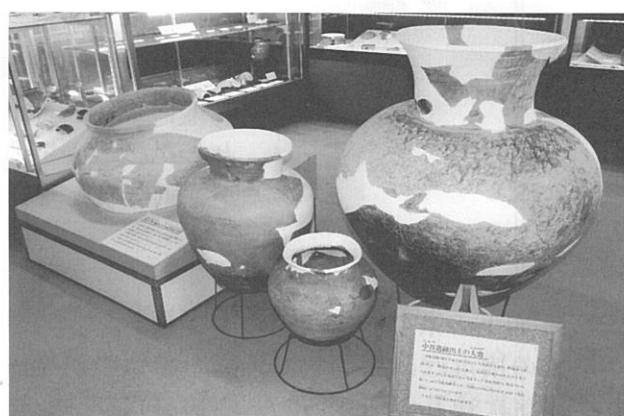
高森古代史年表



武陵地遺跡出土縄文時代後期耳飾り



増野新切遺跡縄文時代中期土器群



中谷遺跡出土 大甕（7世紀）

研究調査報告

「明治の夜明けに挑んだ出原の今村清之助～人とのつながりを生かして～」

館長 松上 清志

はじめに

平成18年に資料館では、『高森の人』という本を発行し、今村清之助をとり上げた。10年が経った平成28年、東京証券取引所の広報担当の千田康匡氏が調査に来館した。渋沢栄一とともに東京証券取引所の前身を立ち上げた人物として、今村清之助に注目しており、政府の内閣局も明治が始まって150年という区切りで、このような隠れた人物をとり上げることに積極的とのこと。そこで、9月に資料館として初めて今村清之助を取り上げて特別展を行った。

1 今村清之助の生い立ち

清之助は、今から169年前の嘉永2（1849）年、当時の出原村に生まれた。生家は、三州街道、今の上県道沿いにあった嶋田屋で、代々庄屋を勤めた家だったが、清之助が生まれた頃には大変貧しく、日々の生活にも困るようになっていた。近くには平田国学没後門人であった宝泉寺の住職があり、追分の高橋家には同じく没後門人の寺子屋師匠もいたので、どちらかで学んだと思われる。書き記されたものはないが、



その後の清之助の活躍を考えると、幼い頃の学びの問題を考えざるを得ない。貧しさゆえに辛い思いを数多くした清之助は、十代で家をとび出して都会で働くとした。その場所が横浜だった。

今村雄治氏宅にある清之助肖像写真

2 「天下の糸平」に商売のコツを学ぶ

幕末の横浜は、開港して外国との取引が始まり、活気に満ちた所だった。明治元（1868）年

の横浜で、19才の清之助は仕事になりそうなことは何でもやった。露天商として道ばたに店を開き、ザザエのつぼ焼きやタバコを売ったり、洋酒をコップで売ったりした。時には蚕種の買出しをして失敗することもあり、雑貨商の斡旋や両替商など次から次へと仕事を替えていくなかで商売のコツをつかんでいったと思われる。

この時代の清之助に大きな影響を与えたのが「天下の糸平」こと田中平八である。平八は、駒ヶ根の生まれで、飯田の田中家に養子に入り、横浜に出て生糸の取引で財を成し、小説のモデルにもなった人物である。性格的には清之助とは違って相場師のような豪放磊落の面はあったが、同郷ということで、商売の上では清之助を弟分として引き立てたようだ。

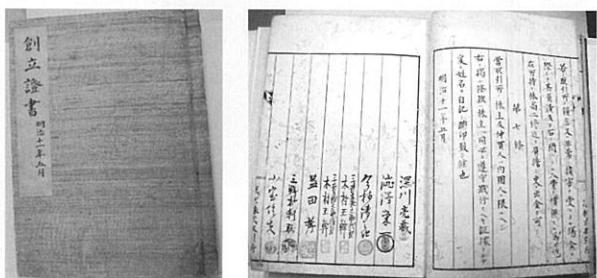


建碑期成会発行『天下の糸平生誕百五十年記念田中平八の生涯』より

3 渋沢栄一と創立した東京株式取引所

明治7（1874）年、26歳の清之助は、親しい仲間と横浜組を作って東京に進出し、公債証書の売買を始める。一方、大蔵省の役人であった渋沢栄一は、「株式を買うことによって事業に参加できる」という株式会社と取引所の仕組みを日本に作ろうとして、大蔵省を去り、日本で最初の株式会社である第一国立銀行を設立する。その後、栄一は公債証書の仲買人代表であった清之助らと力を合わせて株式取引所の開設に向かう。

明治11（1878）年6月1日に東京株式取引所が創設される。設立発起人には、一仲買人として関わることを選んだ清之助の名はないが、下の創立証書には渋沢栄一と並んで今村清之助の名が三番目に見える。



「東京証券取引所」所蔵の創立証書

4 陸奥宗光との外遊

明治の夜明けに挑んで、ある程度の成功を収めた清之助は、「自分の眼で欧米諸国を見てみたい」考えるようになった。後に外務大臣になった陸奥宗光も同じような考えを持っており、意気投合した二人は、明治17(1884)年4月27日に横浜港を出発し、サンフランシスコへ向かった。約1ヶ月半のアメリカ視察で、清之助が強く刺激を受けたのは工業の発達ぶりと鉄道の果たす役割の大きさだった。そのアメリカ視察をまとめたもので高い評価を得たのが『外遊漫録』である。その後、イギリス、フランスと回って、約148日間の外遊を終えて、無事に帰国した。

陸奥宗光はイギリスにそのまま残ったが、二人の友情は確かなものとなった。下の写真にある出早神社のぼり旗の文字は、今村清之助が仲介して陸奥宗光に書いてもらったものである。



出早神社の幟旗と資料館に寄託されている原書納箱

5 今村銀行と井上馨、そして鉄道事業へ

明治21(1887)年12月3日、東京の日本橋に念願の今村銀行を創立した。日ごろから親しくしていた、当時の農商務大臣井上馨は、清之助に「投機業から一切手を引き、世の中で最も信用のある銀行をつくりなさい。」と忠告した。清之助はそれを忠実に実行したので、今村銀行は模範的な銀行となっていた。

また、外遊でその必要性を痛感した鉄道事業にも乗り出した。まず手始めに、明治19(1886)年両毛鉄道会社が創立し、清之助は発起人の一人となった。鉄道事業を成功させるためには、巨額の資金が必要で、測り知れない困難が伴うことは清之助にもわかつていたので、人任せにせず自分で引き受けて取り組んだ結果、生糸を産地から運び出す両毛鉄道が開業できた。その後、清之助が関わった

鉄道は、九州から北海道まで全国で70を超え、台湾や韓国の事業にも関わった清之助は、「鉄道王」とも呼ばれた。今、東京の谷中霊園にある清之助のお墓には、汽車の模型が添えられている。



谷中霊園にある今村清之助のお墓

6 故郷の人々に対して

当時の日本の経済界の大人物となり、巨万の富を手に入れた清之助であったが、故郷の人々に対しては謙虚さを失うことはなかった。出早神社への寄付にも自分の名を出さぬような配慮を求める清之助自筆の手紙が生家に残っている。

明治34(1901)年、清之助は体調を崩し、翌年9月26日54歳の生涯を閉じた。東京の芝・増上寺で行われた葬儀では1000人以上の人蔵が参列し、120人のお坊さんが読経を上げたと言われる。



増上寺での葬列

まとめにかえて

今村清之助が活躍できた源は、清之助自身の貧しい生活にもめげない粘り強さとともに、清之助の周りに集まってきた多くの人の輪があった。人のつながりを生かして成功したともいえる。

もう一つ、先を見通して目を海外にまで向ける進取の精神があげられる。これは生糸でつながった伊那谷と横浜、海外という時代の息吹を清之助自身が体感していたからなのかもしれない。

* * * 平成 29 年度の記録 * * *

利 用 团 体 名 称 と 人 数		
4月	町内	美人画教室(7) 駒場敬老会(36) 調査委員会小委員会(6) 新田ふれあいの会(31) ゆうき(7) 高森BC保護者会(20) 資料館運営委員会(6) 係会(5) 古文書研究会(26) 高森町史学会総会(30) 南小6年生(71) 資料館調査委員会(10) 町史を読む会(16) 係会(4) 南小6年3組・4組(71) 天理教(25)
	町外	久井自然に親しむ会(20) 阿南高校同窓会(40) 飯田ウォーキング(15) 忠組の会(12) 漢詩会(10) 岡谷の会(20) 阿智川寿クラブ(21) 飯島氏顕彰会(21) 山本中37回(11) 下黒田公民館(12) アルピコ(7) 松尾小3年生下見(5) 松本市寿食改(17) 浜松花の会(31) 浜松ラジオ体操愛好会(19) NHK第一ラジオ(5) JRさわやかウォーキング(62)
5月	町内	竹里歌の会(15) 時の駅講座特別講演会(200) 松岡城跡を歩く会(60) 北小6年生(32) ブンカザイル(3) 南小6年生(142) 古文書研究会(26) 高森中美術部(35) 町史を読む会(18) 高森中3年生(40) 町史学会(34) キッズサイエンスクラブ(47) 資料館活用委員会(8)
	町外	松尾小3年生(137) 飯田観光ガイド(11) MPトラベル(29) 豊丘村公民館(80) エース観光(16) 寂蒔公民館(51) 下黒田公民館(80) 長野郷土を学ぶ会(16) 豊丘村史学会(41) 毛賀史学会(40) 長野エース観光(14) 藤井寺中(18) 産能大学(9) 山本婦人文庫(16)
6月	町内	調査委員会(13) ほったかもり(41) ガイド会議(23) 古文書研究会(24) 北小クラブ(11) 町史を読む会(16) 高森BC(23) ブンカザイル(14) 柿の里フォーラム(96) 建設労連(29) 南小探検クラブ(32) ガイド会議(15)
	町外	県知事一行(7) 津田中学(5) 橋北公民館(20) 八尾中(5) 松本下安坂第4農事部(20) エースアタック友の会(61) 南箕輪公民館(2) 高天神城ガイドの会(22) 鄉友会(4) 荻の会(5) しじみの会(15) 大町陶芸の家(30) 駒ヶ根シニア大学(16) 松本城北公民館(4) 赤門スクール(111) 大町トラベルプラザ(23) 上片桐中同窓会(12) 伊賀良パセリの会(8)



天理教の皆さんボランティア作業(4月)



古文書整理作(6月)



お蚕様飼育(7月)



土器整理作業(6月)



刀の手入れ(12月)

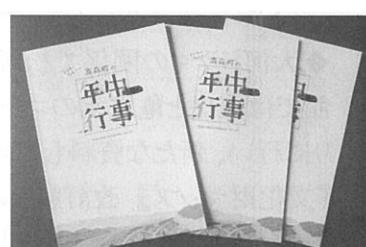
利 用 団 体 名 称 と 人 数		
7月	町内	ブンカザイルキッズ(3) 北小親子体験教室(34) ブンカザイルキッズ(10) 時の駅講座(37) 山吹育成会(50) 古文書研究会(19) キッズサイエンス(30) ガイド研究会(19) 町史を読む会(18) 資料館活用委員会(6) 新任教職員町内巡り(19) 親子体験教室(91)
	町外	岐阜市青色申告会加納支部(25) 南箕輪公民館(40) 豊丘村木下様(13) 下久堅小林公民館(23) 農村マイスター(23) 伊賀良詩吟の会(12) 西鼎老人会(19) 川西郷土研究会(5) 早実学校(4) 早実中等部(5)
8月	町内	年中行事小委員会(5) サイエンスキッズ(40) 古文書研究会(20) 町史を読む会(19) 平和学習会(77)
	町外	上小郷土研究会(6) 教育会歴史委員会(10) エスエスの会(24) 井月学習会(24) 伊那赤木農家組合(13) 遠鉄パンビツアー(44) 退職校長会(14) ふきのとうの会(5) 遠鉄パンビツアー(40) 松本城北公民館(31) 昭和音楽大学(18)
9月	町内	時の駅講座(45) 探検クラブ(32) ガイド研修会(9) ブルカザイルキッズ(7) 運営委員会(7) 調査委員会(9) 古文書研究会(22) 町史を読む会(17) 南小たんけんクラブ(30)
	町外	豊鉄観光(21) 県商工会上西部連合南信支部(15) 昭和音大(20) 伊賀良詩吟の会(5) 伊那市観光ガイド(22) 須坂街並みクラブ(29) 三才公民館(38) 芋島高齢者クラブ(37) 赤穂公民館(15) 新居高同窓会(43)
10月	町内	町史学会幹事会(12) 柿渋研究会(7) 町民運動会役員(50) 高森中1年生(150) 古文書研究会(20) 北小クラブ(11) 高森少年野球(29) 育種寺子屋(53) 町史を読む会(15) 柿渋の会(7) 上平公民館(30)
	町外	伊賀良楽寿会(9) 上下郷土研究会(26) U S Pトラベル(65) マナベルクラブ(75) 長春寺仏教婦人会(51) 駒ヶ根古文書研究会(8) 波田歴史同好会(8) ふきのとうの会(20) 教弘友の会(6) 川西郷土研究会(39) 白夜短歌会(9) JAながの年金友の会更科支会(22)
11月	町内	土器野焼き(15) 南小6年3組(35) 時の駅講座(60) 柿渋研究会(13) グランスマイル(7) 北小クラブ(11) 下市田史談会(13) 古文書研究会(24) ホームページ打ち合わせ(4) 年中行事小委員会(6) 高森中出前授業(30) 町史を読む会(19) 議会総務民生委員会(10) 北小クラブ(11) 高森シニア大学歴史班(26)
	町外	豊田中日文化センター(20) シニア32游歩会(17) 飯伊年金受給者協会(46) 駒ヶ根市文化財審議会(9) 御前崎文化財審議会(10) 蓼輪町歴史友の会(12) 毛賀史学会(20) 北部教職員(13) 新野左馬助公の里(44) まつみ会(23) 小布施郷土史の会(23) シニアクラブ磐田(33) 笠井歴史郷土文化を学ぶ会(24) 歴史教育者協議会東海ブロック(27) 川崎市麻生民生委員(26) ×2回
12月	町内	下市田二区高齢者クラブ(25) 町史を読む会北部公民館館長主事会高森町史学会幹事会(16) 白夜短歌会(10) 町史を読む会(14) 古文書研究会(23) 年中行事冊子編集小委員会(5)
	町外	菜の花の会(7)



土器野焼き(11月)



文化財マップ改訂(3月)



「子どもに伝えたい 高森町の年中行事」刊行(3月)

利 用 团 体 名 称 と 人 数		
1月	町内	小正月飾り体験教室(60) 調査委員会(11) 顔面把手撮影会(8) 古文書研究会(22) みつば保育園(20) 町史を読む会講演会(38) 高森BC(10) 南小3年生(121) 立川流彫刻調査(8)
	町外	松川中央小3年生(85) 菜の花会(28) 鼎地区役員(5)
2月	町内	柿渋研究会(8) 立川流調査(10) 資料館活用委員会(9) 顔面取手写真披露会(13) 南小3年生(4) 南小出前授業(114) 古文書特別研究会(45) ガイド研究会(20) らくらく氣学(10) 高森町史を読む会(16) 美人画の会(5) 北小4年生(34)
	町外	阿智第2小3年生(21) 松川町高森町議員交流会(33) 白夜短歌会(9) 北信ブロック遺族会(55)
3月	町内	本学神社祭典実行委員会(5) 資料館運営委員会(6) 資料館調査委員会(11) 古文書研究会(22) 吉田地区高寿会(40) 高森BC(9) 高森町史を読む会(16) ガイド会(18) らくらく氣学(7) 新任職員研修(13) 町史学会幹事会(11)
	町外	飯田病院デイケア(13) 三穂公民館(12)

入館者数：平成29年度及び昭和54年11月の開館以降の累計

★平成 29 年度	10,827 名 (町内 6,658 名 町外 4,169 名)
★開館以降の累計	244,695 名 (町内 190,839 名 町外 53,856 名)

平成 29 年度 資料寄贈者御芳名

★書籍・刊行物（主なもの）

品 名	寄贈者
あなん文化財ガイドブック	阿南町
宮下功「満州紀行」	飯田市歴史研究所
明治鐵道資料集 第二集(6) 今村清之助君事歴	塩澤由利子(白山町)
高森町小字図他 5 点	今村理則(川路)
豊丘村文化財調査報告書神社編他	豊丘村教育委員会
立川流彫刻今昔他 4 点	立川美術館
証券市場誕生	株日本取引所グループ
誰が一木隊を全滅させたのか	関口高史(防衛大学)
石造仁王像	高野幸司

★民俗資料・その他

品 名	寄贈者
大槻四郎作 水墨画	下平清志(上市田)
昭和時代うちわ 32 点	三石睦夫(山吹)
餅つき杵	樋本宣子(出原)
山吹古地図(明治時代)	井澤孝夫(名古屋)
和鏡 2 面(平安・戦国)他	光沢一治(吉田)

編集後記

◆大河ドラマの関係で松源寺、松岡城跡、そして資料館も大変にぎわった一年間でした。 資料館では直虎と亀之丞のコーナーを設けて情報を発信しました。 考古部門の展示替えを三十数年ぶりに行い、新たな資料も加えて一新しました。 また、『子どもに伝えたい高森町の年中行事』の刊行、『文化財マップ』改訂も行いました。 資料館にとって大きな節目となる 29 年度でした。 今後とも資料館『時の駅』の活用をよろしくお願いします。

(主事: 芦部公一)